# Ⅳ. 新任教員教育セミナー

2020 年 9 月 24 日、Zoom を用いたオンラインによる「京都大学新任教員教育セミナー 2020」を開催しました。本セミナーは、本学に採用された新任教員および助教から昇任された教員を対象に実施しています。当日の参加者は当日配布資料の名簿に掲載された人数が 191 名、Zoom 上では一番多いときで、170 名程度でした。セミナーでは「今の時代にふさわしい京都大学らしい教育」とはどのようなものかを探求することを目的とし、日本の大学教育の動向や本学の教育改革について知り、実際に直面している教育に関する問題や学生指導上に関わる課題などについて共有したりする場所になるようプログラムを構成しています。今年度は、コロナ禍における教育のあり方について考えるためのグループディスカッションセッションを特別にもうけました（表 1）。

**表1　2020年度京都大学新任教員教育セミナープログラム**

| | |
|---|---|
| 13:00～ | **開会式**　（司会：**山田 剛史**　高等教育研究開発推進センター准教授）<br>**趣旨説明　松下 佳代**　高等教育研究開発推進センター教授 |
| 13:05～ | **セッション1　オープニングレクチャー**<br>**「現在の大学教育の動向と京都大学の教育改革」**<br>**北野 正雄**　理事・副学長（教育・情報・評価担当） |
| 13:30～ | **セッション2　グループディスカッション**<br>**「コロナ危機の中で京都大学の教育をどう進めるか－課題や実践知を共有する－」**<br>**ファシリテーター　山田 剛史**　高等教育研究開発推進センター准教授 |
| 14:15～ | 休憩 |
| 14:30～ | **セッション3　グループ別セッション**（参加型セッション）（詳細は表2参照）<br>**テーマ①「留学生とどう向き合うか」**<br>**テーマ②「研究室運営を考える」**<br>**テーマ③「困難を抱えた学生に向き合うには」**<br>**テーマ④「アクティブラーニング型授業をやってみよう」**<br>**テーマ⑤「これからのオンライン授業を考える」** |

全体会では、まずセッション1として、北野正雄教育担当理事・副学長（当時）より「現在の大学教育の動向と本学の教育改革」と題したオープニングレクチャーがありました。教育改革の方向性に大きな変化はないものの、コロナ禍においてこれまで当たり前にできていた教育活動ができなくなり、あらためて授業やキャンパスの役割、本学の目指すべき教育の姿が問われることになったとの指摘がありました。セッション2は、前期に実施したオンライン授業に関する教員調査の結果を参考に、コロナ危機の中で本学の教育をどう進めるか、という点について考えるグループディスカッションでした。教員調査からは、オンライン授業に対する一定の手応えを感じる結果が見えつつも、学生とコミュニケーションをとることの難しさや評価手法の問題、学生間の繋がりを作ることの難しさやオンライン授業準備の過剰負担など、様々な課題が感じられていることが報告されました。セッション3は、参加型セッションとして、用意した4つのテーマごとに分かれてのワークショップがありました（表2）。例年、最後には再度全体で集まりジグソー形式によるインテグレーションセッションが行われていましたが、今年度はセッション3でテーマごとに異なるZoomミーティングルームを利用する形式としたため、それぞれのセッションが終わった段階で解散となりました。

## IV. 新任教員教育セミナー

### 表2　セッション3 参加型セッションの各テーマと内容

| | |
|---|---|
| 【テーマ】<br>【担当講師】 | **留学生とどう向き合うか**<br>理学研究科附属サイエンス連携探索センター（SACRA）国際戦略部門講師　**鈴木 あるの** |
| 【主な内容】 | 研究室や授業のクラス内に留学生を見かけることが普通になりました。異なる語学能力や文化・宗教・政治的背景をもつ国々の学生が共に気持ちよく学び、多様性を建設的な議論へと結びつけるために、教員にできることは何でしょうか。このセッションでは、マナーとして最低限知っておきたい海外事情や異文化の考え方、世界各国の様々な教育制度の概要などを、特に本学で起こりがちな問題に絡めながらご紹介します。さらにディスカッション形式で皆さんのご経験も共有していただき、より多くの疑問を解決していければと思っています。 |
| 【ファシリテーター】 | **佐藤准教授　SADEHVANDI研究員** |
| 【テーマ】<br>【担当講師】 | **研究室運営を考える**<br>学際融合教育研究推進センター准教授　**宮野 公樹** |
| 【主な内容】 | 教員にとっての研究推進の場、そして人材育成の場である研究室。研究室を研究と教育の原動力として機能させるにはどうしたらいいでしょうか。PI（Principal Investigator）各々のやり方があるとは言え、この機会に一度考えておくのも大事かと思います。いくつかの事例と調査結果を紹介いたします。 |
| 【ファシリテーター】 | **岡本特定講師** |
| 【テーマ】<br>【担当講師】 | **困難を抱えた学生に向き合うには**<br>学生総合支援センターカウンセリングルーム講師　**和田 竜太** |
| 【主な内容】 | 修学上、研究指導上の不適応を起こした学生・院生に対し、教員はどう向き合えばよいのでしょうか。学生のその後の人生を大きく左右する時期に関わっていることを意識し、可能な対応を探るにはどうすればよいでしょうか。今回は様々な不適応の様相の紹介と「困難」を知る、あるいは気づくための話の聞き方を体験・実習したいと思います。 |
| 【ファシリテーター】 | **勝間特定助教** |
| 【テーマ】<br>【担当講師】 | **アクティブラーニング型授業をやってみよう**<br>薬学研究科講師　**津田 真弘**　高等教育研究開発推進センター教授　**松下 佳代** |
| 【主な内容】 | 2018年度から薬学部では、アクティブラーニングを取り入れた授業（講義を聴くだけでなく、話す、書く、発表するなど学生側の能動的な参加を含む授業）に取り組んでいます。その中で、学生たちは能動的に参加するだけでなく、協働で深く学ぶ姿勢を身につけてきています。このセミナーでは、その授業で使っているさまざまなやり方、技法を実際に体験していただきながら紹介します。今年度はコロナの影響でオンラインでの実施となりましたが、いろいろな工夫で継続しています。アクティブラーニングについてまったく初めての方から、この機会にしっかり学びたいという方まで参加できます。 |
| 【ファシリテーター】 | **原特定研究員** |
| 【テーマ】<br>【担当講師】 | **これからのオンライン授業を考える**<br>高等教育研究開発推進センター准教授　**田口 真奈／酒井 博之**　情報環境機構教授　**梶田 将司** |
| 【主な内容】 | 授業におけるICT活用を余儀なくされたこの数か月、初めてPandAを使った、という先生も多いのではないでしょうか。コロナ禍が過ぎ去ったあとも、対面授業に加えて、ICTを活用することで、授業準備を効率化したり、教育効果をあげたりすることができます。また、京都大学が取り組んできたOCW、MOOC、KoALA（京大のSPOC）を通して、先生の授業を学外に発信したり学内の授業で活用することもできます。本セッションでは、学内のオンライン授業のグッドプラクティスやICT活用事例を紹介し、これからのオンライン授業について考えたいと思います。 |
| 【ファシリテーター】 | **鈴木特定研究員** |

参加者の事後アンケート（80 名回答、教授 5 名、准教授 17 名、講師 13 名、助教 45 名）より、総合評価は 76 名の方が有意義であったと回答と高い評価が得られました。自由記述からは、今後、取り上げるといいであろうテーマとしては、「研究教育の国際化」「課題の与え方」「教育現場におけるハラスメント」「研究指導」といった様々なものが提案されました。セミナーの良かった点としては、コロナ禍での新規採用で、同僚との交流もままならない状況であったため、こういった機会があってよかったとの声をお寄せいただきました。

引き続き、よりよいプログラムにしていきたいと思います。